

どんぐり保育園

# 園だより



2026, 1月号

Eメール [donguri\\_mori@cup.ocn.ne.jp](mailto:donguri_mori@cup.ocn.ne.jp)  
ホームページ <http://minnanomori.jp>

本年もよろしくお願い致します

## 言葉を育む ～20年後の子どもたちのために今必要なこと～

天候にも恵まれ、穏やかなお正月を迎えられたのではないのでしょうか。

昨年はどんぐり保育園の20周年記念式典があり、開園から20年経った子どもたちに出会い、今の子どもたちの20年後の姿がとても楽しみになりました。そんな昨年、「国語力」についての研修を受け、20年後の子どもたちのために、今私たちができることを改めて考える機会がありました。研修の中で、現代の中高生の子どもたちは「ヤバ」「キモ」「エグ」の極端な言葉や表現をし、それだけで感情を伝えようとしたり、自分の感情や他者の気持ちを言葉で整理し、考えることが難しいため誤解を生みやすく、人との関係でトラブルが大きくなりやすいとのことでした。また以下のお話もありました。

○「国語力」とは年相応の「語彙力」をベースにして、「感じる力」「想像する力」「考える力」を養い、「表す力」を作り上げる。それが全人的な「生きる力」となる。

○予想外のことが起きた時に子どもは心が揺さぶられる＝実体験

揺さぶられたことを必死に人に伝えようとする（人に言いたくなる）＝言語化

これを聞いた時に、目を輝かせて自分の思いを必死に伝えてくれる子どもたちの姿が目には浮かびました。その子どもたちの背景には生活やあそびの中で面白かったことや驚いたこと、心が揺さぶられるような出来事があったのだと思います。

## 思いを汲み、丁寧なやりといを大切に

私たちは子どもたちと関わる中で、思いを汲み取ることを大切にしています。それは、0歳児のどんなに小さな子どもであっても、思いを汲み取り、その子の思いにまず共感します。子どもは自分の思いを受け止めてもらうことで安心、安全を感じ、その安心できる環境の中で言葉を育み、獲得していきます。だからこそ、私たちは「ヤバイ」「エグイ」というような言葉ではなく、子どもに伝わる丁寧な言葉を意識して関わる必要があります。このような単語だけの表現は現代社会には溢れていて、つい使ってしまうこともあるでしょう。私たちも意識していないとつい使ってしまいます。でも、自分の使っている言葉を少し意識していくことで子どもたちの語彙力を高めることができます。

忙しい毎日ではありますが、子どもが表出した嬉しいこと、悲しいこと、驚いたこと、怒れたことや子どもの発見に対して関わりやりとりをするときに、いつもより丁寧な言葉や細かな言葉を意識してやりとりしてみませんか。もしかしたら、いつもとは違う子どもの反応や発見ができるかもしれません。

また、他の研修の中で、対話は“ドッジボールではなくキャッチボール”こんな言葉もありました。子どもも大人も楽しいキャッチボールをしながら、また新たな1年を重ねていきましょう。

本年もどうぞよろしくお願いいいたします。